

部 歌

古林先生作詞

一 まや六甲に抱かれて  
ここ六甲台の水清し  
ちぬの浦和をみおろして  
シブキをあげる健男児

二 フリー プレスト バタフライ  
バツク リレー ボロまでも  
凌泳健児の意気高し  
いざや競わん腕を撫し

三 ああなつかしの水泳部  
六甲台のプール辺に  
月見の宴で泳ぎやめ  
くる夏まつていきりたつ

喜 楽 山 人

六年ぶりに学長を解放されたとき、毎朝便所のまどから眺めている木の葉の緑が一きわあざやかなように見えた。やつぱり私も相当苦勞していたのだなアと、つくづく思つた。そのとき、さあこうなつたら、これからは存分に泳いでやろうと決心したのであるが、一べん学長稼業なるものをやると、さらりとすてゝも、余韻翳々、いまだに前学長とか何とか言つて、私を解放してくれない。有難や節ではないけれども、歯がゆいじれつたいことで、有難や有難やどころの騒ぎではない。私は学長時代あちこちで泳いで、私としてはニュー・レコードをつくつたことがある。六甲台のプールは申すに及ばず、住吉学舎のプール開きに泳ぎ、姫路分校のプールで春寒い時に泳ぎ、東へ移つて、岐阜は長良川で鶺鴒のあいまに泳ぎ、熱海の海岸から東京では後楽園のプール、南へとんで、新和歌浦、更には神戸商船大学の練習船に県下の学長連中と乗つて、淡路は岩屋の浦で泳いだ。流石その時にはあの流れの早いところで、しかもビールを少しきこしめしてからのことであつたので、大丈夫であろうかと、救命具まで万端の用意をしてきていたらしい。あとでこれを知つたのであるが、そんなことなら一寸濡れかける真似でもして驚かすのであつたのに、残念

でした。阿々

今 昔

学1 草 野 嘉 一

寒い二月のある日曜日、朝十時高校三年の娘に誘われるまゝ、明治神宮外苑のインドアプールに、はじめて出掛けた。千駄谷の駅を外に出ると、若い人が続々と外苑に向つて歩いて行く。「はてな？ 今日室内競技場で何かあるのかな」と思つて見ていると、この人々がすべてインドアプールに行くのには一驚を吃した。順々に中に入れているのに、なお入口には長い行列を作つている。これでは如何に広いプールでも芋の子を洗う様だろう。

大プールはあきらめて、陸上競技場のスタンドの下にあるもう一つの小さい方のプールに行く。この方は入口に行列もなく、すぐ這入れた。相当混んでいて、まともには泳げないが、室内の温度も高く、水温も適当で、全く真夏の状態だ。いつまでいても寒くない。

昭和八、九年頃、はじめて甲子園にインドアプールが出来て、藤井先生の御提唱で「水曜日水の日だから、毎週この日に集まろう」と言うことで、会社を引けてから今は故人となつた鍵本君

214  
313  
=650

(学二)などと時々出掛けたが、プールにはほとんど人影もなく、室内が寒くて一度プールから上ると再び飛び込む気になれなかつた。当時を思いおこし、うたた今昔の感に堪えなかつた。昨今、東京の女子高校生の日曜日は、朝八時からスケート、十時から水泳、昼食には御馳走を食べて、午後は映画を見て過す、のだそうである。全くよい御時世になつたものである。

### 同期部員の思い出

学4 条川 義 男

“同期部員の思い出”という題をもらつて、「ええと、同期の連中は誰と誰だつたかな」と、いちおう指を折つて数えてみなければならぬほど、それほどいつの間にか歲月の流れでいたのに今更の如く撫然たる思いがするのである。

古めかしくはあつたが、柔剣道場と木立の間に狭まれた落着いた環境のプールから、これはまた、あたり一面草木としてなく、眼下に東神戸が見降せるといつたあけつびろげな六甲台のプールまで、先輩、後輩を入れて総勢僅か十数人といつた部員であつてみれば、あまりにも親し過ぎて、誰と誰が同期で、誰と誰が先輩であつたか、後輩であつたか、たちどころには整理がつかない程

なのである。

そこで間違えては失礼と思つたので、念のため三十五年度の「凌泳」を取り出して調べてみたら、なんと、わが同期生は本間孝之助(背泳)、池谷俊一(自由型)の両君と小生(平泳)のつた三人であつた。

当時は大学だけの三年、一学年の水泳部員が三、四名といつた状態では始めに書いた「僅か十数人」といつた水泳部員さえいなかつた勘定になる。「そんなに少なかつたのかなあ」と今更のごとく驚いた。

そういえば対大阪商大戦、三商大戦といつた定期戦の時でさえ、予科や高商部のあつた大阪商大や東京商大にくらべて、わが方の陣容がいかに貧弱であつたのを憶えている。そこでもうにも頭数の揃わない時には、当時ラグビー部員だつた小松哲雄君(平泳)や剣道部員であつた山本國次君(平泳)らに、我が部員になつてもらつて泳いでもらつたことがあつた。この両君とも小生と同期生であつたから、この両君のことを勘定に入れさせてもらえば、小生の同期生は五人ということになる。

そこでこの人達の思い出であるが、われわれのうちで水泳マンとして一番筋の通つていたのは、本間孝之助君だけではなかつたかと思ふ。同君だけが僅かに高商あるいは、それ以前からの選手経歴の持主であつた。他の四人は小生も含めて、いわゆる「趣味

としての水泳」を楽しんでいた「下手の横ずき」人種に過ぎなかつた。小松君の如きは先輩板野さんの一パイのジョッキに付られて泳いだくちであり、山本國次君は剣道場が隣り合せてあつたため、隣りの誼みをたてに強引に頼みこまれて泳ぐ泳いだくちである。この両君とも未だに会うごとに「ひどい目にあわせやがつた」とうらんでいる。

池谷君は小生よりは多少筋の通つた方だつたかもしれないが、しかしこれまた水泳よりは、そのあとのビールの一杯を楽しんだくちではなかつたかといつた印象の方が強い。

いずれにしろ、われわれ四回生は、水泳部の中では最も弱体に属するグループではなかつたかと思う。しかし弱体であつたということは決して不熱心であつたというわけではない。それが証拠に大学を出てから二十六年、一人も欠けずになんとか世の中も泳いできており、たまさか会えば、直ちに昔日の部員時代に帰るほどの親しさを未だに持ち合わせているのである。

## 同期部員の思い出とその他

学12 岡本忠男

同期の水泳部員は、山口八郎、守田謙三、尾上信三、稲木俊男、

木村京一郎、山本亮輔と私の七人であつた。山口、守田、尾上、稲木君等は、東京の成城高校出身、木村君も高校出身であつた。山本君は高商出身であつたが、病氣のため時々プールに顔を出した程度であつたので、高商出身は事実上私一人であつた。成城グループに私と木村君が入り込んだ形であつた。(当時、神戸大学は高商出身と、高校出身の生徒が大対四の割合で入学していた。)然し、部員一同、和気あいあいの内に水泳部生活を過した。競泳では私が短距離とバツク、山口君が長距離、守田、木村両君がブレストの受持であつた。然し、競泳より水球を熱心に研究し、練習した時代であつた。山口、守田両君は、高校時代に充分練習をしていて、水球の技術は関西の各大学の水泳部に比して最優秀であつた。学部十回生より十四回生の部員にこの技術を指導した。その結果、各大学との水泳は関西学院を除いて皆勝であつた。これも練習と指導の賜物で、私達もよくきたわられた。

一年生の時初出場してボールをとつた瞬間、大阪商大部員に沈められたが、そのせつな、守田君に投げた球が成功して一点かせいだ時は嬉しかつた。競泳では、東京商大、大阪商大は予料があり、若手の水泳部員が大勢いたので、本科しかない当校は苦戦したが、それでも先輩諸兄の応援と部員の結束で善戦したと思つてゐる。

二年生の時、米國と戦争となり、あわたたしい生活を送つたが、

水泳部の生活だけは、学生生活中に、思い出多い数々を残した。

十回生の部阪克夫、山口宗樹、森芳夫先輩には、水泳生活のみならず、色々と学生生活の指導を受けた。特に部阪さんとは、高商時代にも水泳を通じて既知の間柄であつたので、特に指導を受けていた。高邁な人物であつたので尊敬していたが、不幸、昭和十八年七月（海軍主計大尉）戦死された事は悲しみに耐えなかつた。更に加えて、山口八郎君の事であるが、学生生活の全部を水泳部で送つたぐらい水泳には熱心な男であつたが、昭和十八年八月、海軍将校として飛行中殉職した。ここに改めて哀悼の意を表する次第である。私とは、下宿も近かつたし、よく語り合つたものである。私が神戸海軍監督官付よりマニラに転動して数カ月後、彼がマニラに来たとの連絡があつたので、早速海軍の料理屋で面会した。私は主計士官であつたが、彼は航空士官であり（第一戦部隊）日頃、熱中すれば萬難を排して任務にがむしやりに突進してゆく性質をよく知つていたので、戦争は長いからあまり無理をしない様に、体を大切にされる様に申した。彼はその時、黙つて聞いていたが、その夜が私と最後の別れであつた。たぶん、昭和十九年九月頃であつた。部阪先輩、山口君共に、全くおしい人物を失したものである。

六甲のプールに行つた時、ときどき思い出し、淋しくなる時がある。

終戦の十二月帰国した私は、神戸大学の近くに住んでいる関係上、大学のプールまで行つてみると米軍の専用になつており、連絡がなかなかうまくつかず、たまに宝塚プールで試合があると聞いて行くと、そこでは行なわれていないといつた状況であつた。その後、二、三年経過して連絡がつき、試合場に行くと、卒業生が少なく、開会の辞から閉会の辞までやらされた時であつた。現在のように、例年部員が私の宅に遊びに来る時とは大分様子がちがつていた。今年は部員も多く、幹部一同ハリキつていたのでたのもしい。私も出来る限り今後共、部員の練習を見に行つたり、試合に出席したいと思つている。

「その他」 “かつば” はやはり “かつば” である。

泳ぐ事……年をとつてもやめられぬ。古林教授も試合の時は、つとめて出席されているが、やつぱり今でも泳いでおられる。私も温泉等に行つても、冷いプールがあれば（シーズンなら）よく泳ぐ。四月に、アメリカ視察旅行の時も、日本からわざわざ水泳パンツ持参して、同行者は誰も泳がなかつたが、視察の時間をさいてワイキキの海岸で泳いだ。それも二日間続けて……。

やつぱり “かつば” はやめられぬものらしい。

（終）

(一)

陽春四月、入学した時は正直なところ「もう水泳は御免だ。出来れば野球部に入つて好きな野球をしたい。」というのが私の赤裸々な気持でした。然し一旦プールに湛えられた美しい水を見ているとついフラフラと水泳部に入ることゝなつたのは、水の生活への懐しさと羈絆から絶ちきれなかつたせいでしょうか。

私と共に水泳部に入つたのは、印藤、上田、池田、富中、古川の面々で何れも前の学校で泳いでいた人ばかりでしたが、当時全国高商大会で名を馳せていた水泳の古川君を除いては戦力の増強とはならず、温厚な前田主将をがっかりさせたものでした。しかもその古川君ですら熊野、守田、木村トリオの平泳陣建在のためフリーに転向され、それは卒業する迄続いたように思います。

当時の水泳部は非常に自由で、高商時代、練習に記録にやかましくしぼられた私達にとつて、各自の自覚とコンディションの調整によつて自己の責任を果す方法が非常に自由なものに感じられ、その良否はともかく、少くとも私には、泳ぐことが拘束されたものではなくて非常に愉しいものであつたことは事実です。したがつて、部の雰囲気は大変和やかであつた反面、勝つて喜び騒ぎ、

負けて泣くといった感激的なものはなかつたようです。

その頃、在学中長らく応召されていた尾原芳行さんが除隊になつて復学し、あの天衣無縫の性質から、私達新入生の餓鬼大将となつて何かと啓発されたことも今は懐しい思い出です。殊にブルサイドで、禪一つでダンスの型を教示した姿が今もハッキリと目に浮びます。

(二)

確か入学した年の夏休みだつたと思います。合宿をやるとの通知が集まつたところ、四、五名しか集合せず、(當時は三商大戦が終ると九月の関西学連の大会を除いて試合はなく、事実上三商大戦の終了と共にシーズンオフのような状態でした。)やむなく前田主将、尾原大将、富中氏等四、五名で神戸港より船で四国に渡り、栗林公園のプールで申訳的に一寸泳いだけで高松を見物し、岡山に渡り、ここで夜の街を案内され又は啓発されたときは実に愉快でした。

ブルサイドに見えた先輩には大野さん、伊藤さん、村上さん等がおられ、よく顔を見せ何かと世話をやいて下さつたようです。当時この方々も随分若かつたようで非常に親しみやすく感じられました。

二年先輩の短距離泳者の柏木慶三、岡本慧夫両氏には個人的にも何かと指導して頂きました。実に私にとつては良き先輩でした。

一年上には今は死き山口八郎氏の元氣一杯な姿が、水球の名手守田謙三氏のあの衣紋格子のよ厚くて幅の広い胸板が、又岡本忠男氏が肋間神経痛とかで必要以上に意気銷沈していた姿が、数々の思い出と共に走馬燈の如く脳裡を駆けめぐります。殊に平泳の守田氏は物凄い馬力と心臓の持主で（当時の平泳は蝶泳との併用を認められていた）、レースの途中に於て、又ラストに於て、この新泳法を採り入れて相手との差をつめ、追いついたもので、私達は、守田氏が少々リードされていてもこの新兵器のあることを知っていたので「何時やるか」「何時やるか」と期待と安心の氣持で彼の素晴らしいラスト・シーンを見守つたものでした。

(三)

同期の人々は皆、地味で真面目な人だつたようです。数は多くとも古川君を除いては、エキストラ的存在でしたが氣持のよい人々が多く、殊に古川君は一見無口で付合にくいように見えましたがその誠実さと真面目さはよく主将としての重責を果すと共に部員の信望厚く、不言実行して皆を引張つてゆきました。最後の三商大戦を東京で了えた暑中休暇と一緒に北海道を旅し、小樽の伊藤先輩宅に御世話になり、弟さんに札幌を案内して頂いたことも古川君の思い出と共に残ります。

上田君は高商時代から引続いて六年間、水泳部で行動を共にしてきた関係上親しみも深く思い出も限りない。この人も真面目な

人で最上級生の時は、何時もマネージャーになり、部の仕事をわが事のようにやつて常に陸の協力者として部の為に尽した人でした。

伊藤君は泳ぐことよりも音楽の愛好者として有名で、レコードの鑑賞を通じての造詣深く、現在福岡で楽器店を営んでいることからしても当時の同君の姿を髣髴さすものがあります。確か二年の秋だつたか、九州一周の始めに立寄り、福岡を案内され名物の「水だき」を御馳走になつたことがあります。色の白い長い指をした人でした。

富中君は須磨の人、入学早々病氣になりお見舞に参上したところ、「親一人子一人」の家庭で、お母さんが幼稚園を経営しておられた。親子の情愛が非常に細やかで、見ていると氣持よく又羨しくもあつた。それ以後個人的にも親しく付合させて頂きましたが非常に几帳面な人で、なんでも出来る人でしたが、特に「和歌」に長じていたようです。水泳の練習を了えてよく一緒に元町通りを歩き、統制で不足していた糖分を探しては補給したものでした。

私達が入学した年の十二月、大東亜戦争が勃発して、私達の大學生生活も二年半に短縮されましたが、幸い水泳の生活だけは三年間満喫することが出来ました。六甲の全山が漸く緑に色づく頃真新しい水に始めて入つた時のひやりとした皮膚の感触、漸く水温まる頃太陽の下で泳いだ時の爽快さ、練習を了えて僚友と語らい

つゝ下つた山道、その凡てが懐しい想い出として何時までも残ることでしょう。

新 9 酒 井 幸 栄

今春無事大学を出ました。駄文の頭書に、これまで四年間諸事に渡つて御世話致しました先輩諸兄の皆様にご心よりお礼申し上げます。更には、私を終始励ましてくれた野田君を始めとする三十五年度部員諸君に紙上を借りて感謝致します。

四月一日より社会人として新しい生活を開始した私も、これ約二カ月程学生時代とは異なつた刺激を受けたわけです。今後はこの様な生活の連続であろう。苦しいことも多々あるだろうが、プールで鍛えたフアイトスピリットと神戸大の伝統精神を心に置いて、頑張つて行く所為であります。しかし、会社生活を送るにつけても、心に浮び来て激しく揺さぶるものは水泳部生活です。人生経験乏しき私を、常日頃慰め励ましてくれたプールと別れて、毎日慣れぬ仕事に心を悩まし、それでも、*work*を尽そうと張切つてはいるものの能率甚だ悪し。私はガツカリしている。きつと、毎日プールの水に頭をぶつけては、同じコースを行きつ戻りつ単純至極な往復運動をなして来た故であろう。大体人間の頭の

良悪は大して変りない。たださへ普通人のヘッドしか持ち合わせぬ私が、入部以来頭を悪くする運動をして来ていたのだから、入学当時の明析さ(？)は遙かかたに消えさりにけりとなるのは無理なきことである。この点では、先輩諸兄の歩んだコースを私も例外たることなく歩むことになつたわけです。頭退化をなげきつゝも今だに水泳に激しい思慕の念を感じずというのはどういふことでしょうか。馬鹿は死ななきや……なんとかとは世の伝えなれど、まさしくかかる態度こそ、その伝えにびつたりのやつらしい様に思える。

会社生活は味気なきものなり。味気なるという人も多けれど、今の所私には味気なきことばかりである。期待に胸ふくらませて入社すれば、カックリコンとすること必至なり。私には永野先輩というよき先輩に恵まれていたので、その言葉通り期待の度合を常人の *ユラ* にする様に心がけ(？)ていた故か、それ程ガツカリはしていない。悪きものと覚悟しておれば、悪くてもとと、良くて幸せである。自ずと道は通ずることを信ずることにしました。朝早く起こされて、朝食のまずさをじつくり味わつて、しかる後には混み合う電車にプレストよろしくすいすいと割り込む。バタチヨウで鍛えた強腰で身体を支える技術も最近著しく向上、かよわき女性のナイトぶりを発揮するのは鼻下長族の常なり哉。今度新しく先輩の一員に加えて頂いたのであるが、先輩などと

呼ばれるとくすぐつたい。かかる気分は先輩諸兄も一度は必ず味わつていらつしやる筈です。私などこんな気持をいつ精算出来るだろうかと内心心配している。私の入部した頃の先輩、上級生の皆さんは怖い人が多かつた。今でこそ、それ程こわい人とは思わなくなつたというより、親しみある先輩諸兄として敬うことも出来る様になつたけれど、入部当時の印象は、実の所、田舎出の厚かましい私にさえ、おそろしい部に入つちやつたなあとこつそりと思つていたものである。合宿等した時には“おい酒井足をふめ”肩をもめ”と有難い命令を受けて一生懸命任務に励んだものでした。上級生は威厳がありました。偉い人が多かつた様に思いますが、私が四年生になつたらあの様になりたいたいと、思つてはいたけれど、その実、情けなき上級生でしかなかつたのは一つの嘆き(?)でした。でも上級生の命令を受けて、足をふんだり、肩をもんだりした時、常に頭上がらぬ怖い人達を痛めつけるのはこの時とばかり、サービス過剰でやつたことは事実でした。

合宿生活も年々變つて来ている。特に著しい特色は、合宿部員数が非常に多くなつて来たことである。私の時は総計二十八人程、それまでせいぜい二十人程の合宿であり、淋しい時には十人の時代もあつた。合宿が多人数となれば、もめごとが多かるうし、マネージャーの苦勞も並大抵のものではない。色々の困難があるでしょうが、これを失敗なく過す為にはどんなことが重要であるう

か。今後の部合宿の最大問題となるであろう。今年の場合は一ツのテストケースです。大いに期待しています。一般に合宿中のモットーは、下は上を尊び、上は下を暖かく指導する精神を倍養しそれを実行することにあると思ひます。勿論かかるモットーは水泳部運営に関する唯一にして最高のものになるでしょう。現在部の運営に関しては、種々諸々のことが云われているらしいが、結論は“水泳部の運営方針は一種の独裁制であり、決して民主的なものではない”ことである。ただ、自由精神にあふれる学生同志の団体ですから、民主主義精神が満ちることは否定し得ないし、又それがなければ、困りものです。しかし究極的には、主将の断が全てを決定するという事實は忘却すべきではない。でも注意することが一つある。それは、上に立つ者がその事實を強く外に出してはいけないという一大鉄規です。いわば、無意識の中に、部員諸君の心に銘記させる様な運動方針こそ、正しい水泳部の在り方を規定するものではなからうか。私自身一年間、主将の職能を自分なりに行つて来たのですが、つくづく感じたことは“失敗だつた”という悔恨の念である。野田君の如き良助言者を得ていたにも拘らず、“無配当の部”にした無能さに我ながらガツカリしています。今後の人生にはこの様な事態も多々あるだろうが、これを教訓にして新しくフアイトを燃やして行きたいものです。

以上のようなつまらぬお説教は、我が水泳部員諸君にはアイヌ

クリームの天ブラですからこの程度にします。後のことは、水で痛めた頭で考えて下さい。きつと人それぞれの考え方をして頂けるでしょう。『考える』という言葉で思い出したのですが、私は「Love」を引いている時にはよく考え事をしました。高踏的な

所では、『人生をいかに生くべきか』そのほんのちよつぱりした『さわり』考えましたし、俗世的な所では『あの人はどうして手紙をくれないのだろうか』『あのバーの女の子が良かったなあ、もう一べん行つたらうか』或はマーシヤン必勝法などを考えたり、学問的寡黙気では『今日の講義では何を聞いたのかな、ゼミ発表をうまくやるにはどこから云つてやろうか』或はもつと切実な所で『早く来い来い特効薬よ』と細々とした懐を考えつゝ、一本の綱に望みをかけるといつつまらぬ事につきる事を、水をかきわけしぶきにぬれつゝ、考えたものです。でもこんなことはもう二度と思ひ切りやれない。そう思うと淋しさはキビシい。騒々しき会社から寮にかえり白壁に向いつゝ、ノイローゼにはならないぞなどど強がりなどを云い聞かせては、フトンをとばし、朝方になつてぶるぶるふるえて急いでフトンを再整頓、こんな生活をしておればのんびり過ごせた学生時代を恋しく思うのは私だけだろうか？

しかし私は若い。極めて若い。だからこんな生活にもすぐ順応できる。有意義な日々を送れる日も近いであろう。又そうしな

ければならない。明日からでも遅くはない。大いにハリキッテ一つやるか。時にはブルに顔を出して、恋しい黒人達に会つてエネルギーを吸収するんだ。

最後になりましたが、昨年痛めました身体も全んど快復し、健康増進中です。御心配をかけましたがもう大丈夫です。

今シーズンの部員諸君の御活躍を祈つて筆をおきます。

P・S (1)私の寮に遊びに来て下さい。

(2)北村、岡見両先輩の久長き幸せをお祈り致します。

新B 野田浩志

大学を出てみると、学生時代には苦痛であつたものが苦痛でなくなり、関心をもたなかつたものに関心をもつ、逆も又然りである。

遅刻など、学生時代には平気であつたが、今では始業十分前には必ずタイム・カードを押している。何も給料をもらつてゐるからだとか、明石時間という天文学的に正確な環境にゐるからでは決してない。お蔭で学生時代には、いくら努力しても増えなかつた体重が、一貫ばかり増えたような次第である。

パチンコ、映画、電車、バーこれまた、人が混んでいて、お互

いに不利な条件でしか利用出来ないのである。五月に入つて社内ソフトボール大会が行われているが、以前は勝敗等無関心で、もつぱら個人プレーにのみ楽しみを見出していたのに、やれ勝利投手だ、犠牲バントだ、盗塁だと一生懸命になつていて、結構楽しんでるのである。

現役諸君なら、多勢の女性にかこまれて仕事が出来るとは、さぞかし御満悦だろうと想像されるかも知れないが、残念ながら私の掛にはそのような動物はいない。こうしたことは数え上げればきりのないもので、一つ一つ上げる必要もなからう。皆さんはこの拙文を読まれてどの様に感じられたかは別として、私としては、学生時代とは全く逆の生活を苦痛だとは思わない。希望を見出しうるところは数多くあると思う。ただ毎日でも見たい現役諸君の練習ぶりを時間的な制約で思うにまかせないのは残念である。でも試合の日には、その成果を存分に發揮してくれることを期待しております。

入社以来、早や一カ月を過ぎた。概算して三百六十分の一カ月が過ぎたことになる。この一カ月が一日の様に感じられる程早かつたことを思う時、一日一日を無為に過すことが恐ろしくなる。

凌泳編集子より、『同期生の想い出』について書くようにとの依頼を受けたが、「酒井という奴は、学門、水泳共に優秀な人物であつたが女に弱く……」と書いたところで拙文の上に、あま

りにも記憶が生々しすぎて余韻がないと思う。それよりも、自分の息子（或は娘）が大学へでも行くようになったところに書くこととして、今回は駄文で紙上を汚させて頂きました。

## 寸 筆

（最近いただきましたお便り）

学1 小山 賢之助

水泳部の想い出は年と共に益々なつかしくなるもので、当地では総会、月見の宴には出られないのは残念ですが、草野（学1）北条（高2）、板野（学3）、野村（学5）の皆様とは夏になると誰から言い出したともなく集つて愉快な日を送ることとして居ります。尤も幹事役はいつも草野さんで、大いに感謝して居ります。

学3 宮本 伯夫

何時も四月中旬から上筒井のプールで泳ぎ始めをしていた時の事を思い出します。初めは寒くて息ぎれがして泳ぎづらかつた事、学校の授業はサボツて泳ぐので、次第に体も調子がよくなつて色

も黒くなる頃、先づ神戸インターカレッジに出場、次に対大阪商大戦、次は三商大戦、九月に関西インターカレッジに出場して、いた事等思い出されてなつかしい限りです。六甲のプールは格別つめたいので練習も四月、五月は充分出来ない事と思います。上井のプールでの最長距離泳者は小生とされています。

学5 野村 弘

新人を迎え張り切つて御練習の事と存じます。東京在住の私などは中々プール開きにも参加出来ず、残念に思います。

小生、今回ロンドン支店に転勤となり、八月末には出発する事になつて居ります。今回は相当長期の予定につき、出発前には是非氏校プールにて皆さんと会い、泳ぎたいものと念願して居ります。

学11 柏木慶三

昭和三十六年度シーズンが始まりましたね!!

最近とんと御無沙汰し、夏になつても水に親しむ機会が無く申し訳なく思つています。而し不思議な事に水泳をすると肩がいくらかついてもアンマするよりなおるのは長年の経験からと思いま

す。

田舎の生活が長くなると町の中に出るのが次第にオツクウになるが、一度諸兄の元気な姿に接したいと思つています。

学16 本間信之

私は三七才、子供も三人で、オッサンになつてしまいました、いろいろ思い出は楽しいものです。予科二回生で、スピードが出ず、いつもラストの方でしたが、卒業後も毎年一回は水につからねば気持ちがつきりしないようになり、ベストを尽すのは喜びでした。(現職……京都市商工局中小企業相談所課長)経営診断、数学、財務分析の勉強、尺八に熱を入れております。

プライドを失わず、長ずるところを伸ばし、自信をもつことが必要で、女性についても早く監識力を養い、好きで、ただの好きではなく、好き、好きで結婚することが第一と思うようになりました。生涯の方針など早く確信をもつのも才能の一つ。こういうことを最近痛感しています。皆様によろしく。

新1 今井政一

何時も会合の時は連絡戴き乍ら、出席出来ない事を残念に思つ

て居ります。そう遠くも離れていないのに官仕えの身と申すものは思いに任せぬもの……。

六甲台の新緑をバックに諸兄の若い力で打上げる水シブキを一度見度いものとは思ひ作ら。そういえば、新緑の未だ肌寒い午後の一刹一氣にブルをダツツユして唇を真青にし乍ら飛上り、服を着た昔の頃を想い出します。

新<sup>2</sup> 小原 祥 男

小生、去る四月末約一カ年間のアメリカ出張を終え帰国致しました。

六甲近辺におみえの節は拙宅の方へぜひ御立寄り頂きますようお願い申し上げます。

新<sup>8</sup> 奥 野 吉 矩

学窓を出てから早一年、又我々カツバにとつては、苦しい、それだけで待遠しかつたシーズンがやつて来たようです。

右も左も分らなかつた昨年の今頃とくらべて少しは心の余裕をもつことが出来るようになりました。せいぜいブルサイドに顔を出さしていただこうと思つています。

## 会 員 消 息

○野村弘氏

八月末ロンドン支店に転任される予定。

○三宅林氏

六月四日、三カ月の予定でアルゼンチンへ出張されました。

○小原祥男氏

アメリカから四月に帰国されました。兼松株式会社大阪支店に勤めておられます。

○品川泰介氏

カリフォルニア大学に留学しておられましたが昨年末帰国されました。

○北村 敏氏

○上村久治氏

○岡見晴児氏

今度めでたく御結婚されました。部員一同御多幸をお祈り致します。

○溝口汪氏

三菱レーヨンに勤務先を変更

○谷和郎氏

東洋ゴムに勤務先を変更

## 凌 泳 会 の 部

### 昭和35年度収支決算

収入	前年度繰越金	22,480
	本年度会費	122,300
	会合費	16,400
	計	161,180

支出	凌泳発行費用	15,264
	水泳部援助金	109,000
	通信費	8,950
	交通費	5,250
	印刷費	1,703
	雑費	2,463
	会合費	17,490
	次期繰越金	1,053
	計	161,180

### 昭和36年度予算案

収入	前年度繰越金	1,055
	凌泳会費	150,000
	会合費	17,000
	計	168,055

支出	凌泳発行費用	16,000
	水泳部援助金	110,000
	通信費	10,000
	交通費	5,000
	印刷費	2,000
	会合費	18,000
	雑費	7,055
	計	168,055

## 水 泳 部 の 部

### 昭和35年度収支決算

収入	前年度繰越金	3,453
	凌泳会援助金	109,000
	部費	171,800
	育友会援助金	26,400
	会合費	18,300
	雑収入	19,400
	計	348,353

支出	水運加盟費	3,500
	試合費用	12,960
	合宿費用	254,675
	交通費	3,085
	通信費	4,721
	会合費	22,621
	コーチ謝礼	8,000
	設備費	10,400
	医療費	13,779
	雑費	14,059
	次期繰越金	553
	計	348,353

### 昭和36年度予算案

収入	前年度繰越金	553
	凌泳会援助金	100,000
	部費	200,000
	育友会援助金	30,000
	会合費	20,000
	雑収入	20,000
	計	370,553

支出	水運加盟費	3,500
	試合費用	13,000
	合宿費用	260,000
	交通費	3,000
	通信費	4,000
	会合費	25,000
	設備費	10,000
	雑費	52,053
	計	370,553

新10B 主将 柳 本 正 雄

昨年の夏、私が前キャプテンの酒井さんからバトンを受けついで、早や十ヶ月になります。

その間、鴨島合宿、関西インカレ、秋季、春季トレーニング、峰温泉プールでの春の合宿、姫路合宿を終えて、いよいよシーズンを迎える事となり、部員一同「いよいよ本番」とはりきっております。

昨年、酒井さん、野田さんの二人ではありますが、一騎当千の両先輩が抜けられた後、どのようになつたか、又、その他、部の現状を、お知らせしたいと思います。

まず第一に、競泳に於ては、フリーで浅間が早くも昨年の最高調のタイムを出しており、それに、昨年、病気で泳げなかつた高岡が泳げるようになり、浅間に続く記録を出しています。

その他では、米田が好調で、八百米で十二分二十秒ほどで泳ぎ、昨年とは比べものにならない好調なスタートを切っています。

太田や、井上（バツクと兼業）や、窪田、夏見、平岡、荒井や、二年の武政などがこれに続き、八百米で、十三分三十秒から十三分フラットの所です。

バツクでは、井上がもう本調子で、早くも二百米を二分五十秒

台で泳ぎ、岡田、安茂がこれに続き、新人では、前田が井上の一年の頃を思わせる活躍ぶりです。

平泳は、昨年通り、萩原、染矢、丸山、の三人で、いずれも二百米で三分十秒前後です。しかし、三分を割るのはもうすぐだと確信しています。又、姫路では、二年の竹内が彼らに続く成績をあげています。

バタフライは、窪田、武政と私、の三人で酒井さんのあとを埋めるのに大変ですが、今の所、三分十秒ほどです。

第二に、ボロの方では、永野さんの年に始まる一ツ橋打倒の目標を三年目の私の年でなんとかしとげたいと、一番力を入れている所なのですが、まず、峰でそのスタートをきり、植中さんのコーチのもとに、例年より半月早くその練習を始めています。

ボロのルールも変り、メンバーも補欠を入れて十一人と増加しました。今年、ボロで活躍しそうなのは、フオワードでは、井上、浅間、米田、高岡、荒井、窪田、で、バツクでは、岡田、太田、丸山、キーパーでは、竹元、平岡といったところです。

まだ試合も、今年になって一度もやつていませんので、予想しかねますが、部員の意気どみからすれば、かなりやれるのではないかと思つています。

その他では、部員が増えたことです。まず、峰合宿では二十七名で、昨年の十七名に比べると十人の増加です。又、姫路合宿では、参加者が四十五名で昨年に比べると十五名の増加で、部員は約五十名にふくれあがりました。

量がふえて質が落ちたとの声もありますので、今年はとくに、質の方に力を入れたいと考えています。又、大勢では合宿などともやりにくいので、二つに分けてやろうかとも考えています。

以上のようなところですが、まだまだシーズン始めですので、かなりの変動はあろうと思います。

平日は、毎日午後一時半より、五時半まで練習を行っています。又、日曜日は、二時より、毎日練習に来られない、二学部や、教育学部の部員の為に練習を行っていますので、泳ぎかたがた見に来ただければ幸せと存じます。

今後とも御声援下さいますよう御願いたします。

## 新十回生のプロフィール

新10B 井上隆史

私も四年生と相成り、「光陰矢の如し」を身をもつて知る年となりました。

自分の文章が活字になり公けにされることは、私の人間内容の貧弱さをさらけ出し、又時経て読み返すと「よくもあんなことを書いたなあ」と赤面すること度々です。今迄は人様の文章・内容に感心しながら、毎年「凌泳」を読ませてばかり頂きましたが思い出多かるべき青春の大学生活も今年限り、駄文で紙面を汚させて貰います。

水泳部の試合、凌泳会の会合がある時、多くの先輩の方がおいで下さいます。でも先輩の汗と涙を流したブルは以前と同じく六甲の緑の山影を美しく映しています。時流れて我々部員の面々は毎年新しく入れ替って、水泳部生活を送っています。その際、誰が誰だか分れば自然と有益な面白い話も一つや二つ出てこようというものですし、又現役時代の己が雄姿を再現しやすく我々と共に水に興ずることもあろうというものです。更には、神戸より遠く離れた青空の下、我々後輩を暖く見まもり援助して下さる先輩の方にも、「かくかくの部員がお世話になっていきます」という事が少しでも分れば、昔の姿を憶びつゝ、ともに「泳ぐ事」の苦しみ楽しみを知る仲として、自然と財布の紐も……………。

そこで個人の眼にうつりました部員のプロフィールを簡単に紹介して見たいと思います。紙面の関係上、何かと云うと「大学生活最後の」という淡い郷愁を含んだ語を用いる四年生に対象を限定しました。順序と内容の叙述とは統一的ではないですが、そ

の内容につき、名誉毀損？で訴えられることを虞れます。

十一名という新三回生に次ぐ大世帯の四年生の中心として、総勢四十余名の水泳部の大黒柱として、ドンと腰を落ちつけて部を運営しているのが、キャプテンの柳本君です。

#### ○柳本正雄君

中学時代には全日本級だったのは、浅間君とともに二人でこれが自慢の種。身体を毀わして一時中断したけれども、その中学時代のベストに仲々及ばないのが又悩みの種となつてゐる。入学には苦労したとかで、色の黒さとヒゲの濃さは抜群（関係ナシ？）二十才マデなんて云われる水泳において、若い連中と共にやるために、又中学の記録に刺戟されて、雪も散らつく三月十日から老体？にムチして陸上トレーニングを萩原・岡田と共に開始したのは有名。今はもう会社の専務さんとかで、忙がしいのに肥えるとは、と減量に苦労している。本は買わず譚義にはでなくても優も頂き、落したことはないと言ふ頭の持主。近頃学問ツイテイルとの評判の蔭に「監査論」九十七点という実績がある。時に見せる文才は、「悲しきバタフライ」という詩を生んだが、孤独感に襲われるバタもドルフィンキツクの採用でそれを克服している。

#### ○浅間啓介君

柳本と同様、中学では囁らしたそうだ。大学では数年間のブランクを埋めている。彼の泳ぎは高岡のそれとよく比較される。

「神大に高岡あり」と全国に売り出した高岡の病氣欠場后、同じく「HOGO」で神大のエースになつたからであらう。高岡の泳ぎが、柔かな足首とスマートなスタイルを誇る「柔」の泳ぎとすれば、浅間のはその全身特に腕を中心とした「剛」の泳ぎです。

誰かが彼を評して申しました「マサカリかついだ金時サン」と。まさしく紅顔の熱血漢浅間をビタリと表わしています。情熱的な顔は、学問への執着により輝きを増し、四年生では一番の勉強家を物語つていきます。

次は比較した高岡君について

#### ○高岡保宏君

二年生の時の全国国公立戦は、彼の真価を示した数少ない試合の一と見た。大学入学以前には、市川で水遊びをした程度という水泳歴だが、柔軟な身体と性来の器用さは、一年の時から「勝つのが当然」という任を科した。酷使に耐えるため、ロングの決勝の途中で「流せ！」のコールをされたのは有名。他校には頭の痛い人物だつたようだ。だから彼には会心のレースというのはいない。その中で最も印象的なのは、前述の国公立戦。夏の夜空をこがす照明灯を背に受け、栄冠のトロフィーをかざしながらニッコリと笑つてゐるブルーに映した影を思い出す時、彼の喜び、勝者のみ味える喜びの姿を見出す。しかし運命は彼に背を向け、英雄も勝てない病魔は彼の能力を十分に試させなかつた。それにしても、

その悲運に卑屈になることもなく、後輩の指導に精を出しているのは、全く彼の人間性の一端を示すものである。

○米田啓祐君

高岡とともに、来年度からは、日本の教育に身を捧げる人。山中で育つたから水泳に興味をもち入部したという。水泳歴は無く又、腕の非力なためにか、長らく低迷していたが、最後の年は快調なビツチで泳いでいる。心理学が専門とかでフロイド、新フロイドと合宿をにぎやかにしてくれる。慎太郎文学には批判的でもあり讚美的でもあり、練習日誌上には、ムツカシイ事を記す。身体も大きいがその眼も可愛く、素朴さを表わしている。坊チャン坊チャンの感じを与え、「ヨネチャン」とか「ケイチャン」の愛称はビタリとくる。学舎の関係上、日曜練習には意欲的です。

学舎が異ると云えば萩原君もその例にもれない。

○萩原 武君

工学部所属の部員はシニア進学と同時に自然退部というのが通例でしたが、神戸高校の厳しい練習に耐えた彼は、自ら苦しい道を選びました。工学部の学舎からプール迄一時間以上もかゝるのも今シーズン限りで、六甲台へ建設中の学舎も夏には完成の予定。一番の貧乏くじを彼はひいたようです。高校時代に鍛えられただけに、後輩の指導には一寸の妥協も許さない。が反面後輩から敬遠されることもないのは、指導のコツを心得た五十円のコイ

ヒーがビールの次に好きという人柄のせいだ。「ブレで泳ぐ時はカツパの頭でフリーのスタイルは熊手の如く、歩く姿はペンギンなり」とひやかされてもニコニコしている温和な水の好きな紳士、それは萩原様です。

人ざわりの好いのは、岡田君を忘れてはいけません。

○岡田重義君

マネージャーの大役を果し終えたところです。陸の上での万能選手も水泳は苦手だったそうです。入学後、陸上競技部に入るつもりで、スパイクを片手に時の主将岡田さんに「アノ陸競に入りたいんですが。」岡田さんは、その身体に惚れて一言「ツイテコイ。」純情岡田君うしろをくつついて行つて「コゴダ」と云われてヒョイと見ると、そこには冷たい水が待ち構えていたということです。口を開けば人を笑わせずにはおかない豊富な話題とウイツトを持ち一緒にいれば心のやすらぎを与えてくれる。このムードは、部員のみならず女性にも威力を発揮する。水泳部一の長身は、神大のローズの異名をもつフリーを見せてくれる。本職はバツクで大器晩成型とも云われるが最後の年とて、大器たらんとして

いる。

○染矢尚武君

モテルということでは黙つてもモテルのに染矢がいる。

という条件は揃いそうだが高校時代には水とは縁がないような。後輩にエラク速い同種目の選手がいるので、比較されては大損をする。鉄棒では大車輪を得意とするだけあつて胸から腕にかけての筋肉美は水泳部一。泳ぎも自己流ながら華麗さを誇つてゐる。六甲進学後も寮生活の鬱悶気を失わず、黙々と練習する。日曜の自由練習は、人が来ない間に泳ぎ、教工の連中が揃う頃、「今日はバイトがあるから」と云い乍らニツと笑うのは愉快だ。金がなから日曜でも練習するのかと思つていたら、金はある。だからマージャンで儲ける必要がないから練習するのだと分つたような分らぬ事を云つて、ニツと又笑う。印象的な女性用の笑い方。遊びは一応こなす九州男児。

同じ様に黙々と練習に励むタイプには竹元と太田がいる。

#### ○竹元忠彬君

「沈黙は雄弁なり」と黙々と何事もやる。一見とつつきにくいと思わずニヤリと冗談に誘われるのもこのタイプの特徴か。食いついたら離れない敢斗精神の持主であることは、昨年の峯温泉以来知る人ぞ知るところ。ビートの速い割に泳ぎにスピードがないとかで、入部以来、フリープレバツクと経験したが、昨年からはボロにおける研究熱意と実力を買われてフリーに専念し、キーパーの位置から部員ににらみをきかしてゐる。

#### ○太田 齊君

眼鏡と云い顔・身体つきと云い、いかにも大学生という評判。柔かい足首をいかして、連日ベストの声を聞く。ロングを最初から飛ばす気力は、下級生も感ずるところがあるとのこと。顔付からドイツ的鬱悶気をかもしだし加えることドイツ語に堪能で日誌に掲げるハイネの詩は、私なんか意味は分らぬまでも、情々豊かな響を伝えてくれる。秀才にありがちな少々神経質な面も度重なる合宿で緩和され、床に就くと以前よりは良く眠れるようになりました。後期試験後寒風の舞う三宮を柳本、山田、井上の四人で計三百二十円也の大金を懐に百円旅館を探し乍ら夜を徹して歩き廻り、翌朝の始発で帰つたのは数少い武勇伝の一つです。

太田を通プール（通学でない？）の長い車中での「思索の人」とするなら、もう一方の山田は都会的センスと幅広い友人関係の中で練られた「考える人」でしょう。

#### ○山田貴彦君

東京からはるばるの神戸の水泳部まで来た育ちの良い紳士です。細やかな事まで気がつき、よく動き廻る。反面キザとかと誤解されることもある。一日の交際で得難い好男子たることは分り、人から信頼される。（親友に彼の名を挙げるのいかに多いことか！）研究熱心なことは彼の身体と記録を比べ、ターンのすばやさを見れば分る。特技は催眠術で峯合宿中、部員を喜ばせた。

濫用は危険とかで柄の悪い我々には、秘術を公開するだけで救えはしなかつた。人から信用されること大で今度労働奉仕団の日本代表に推薦され、凌泳の出る頃は南ヴェトナムで社会に奉仕中。水に対する情熱は断ち難く、水着にトレンチャツは持参したという。その元氣な姿は三商大戦の頃までには我々の前に見せてくれるだろう。小さな外交官山田よ、任を果し日焼した姿を一時も早く見せてくれ！健康を祈る。

## 太陽熱の利用

新10T 萩原 武

いささか変つた表題ですが、最近我がプールにも風呂を作ろうという話もあり、燃料費のいらない手間のかからない熱源の話でもしてみようと思ひます。

太陽表面の温度は $6000^{\circ}\text{K}$ と推定され、これが太陽の温度として感じられる。製鋼所の電気炉でも $3000^{\circ}\text{K}$ そこそこであるからこれはなかなか大変な温度で、地上でこの温度を得るには特殊な装置、例えば原爆とかプラズマジエツトを必要とする。更に中心部では実に $2500$ 万度、 $2500$ 億気圧といった想像もつかない状態のガス体である。

太陽は、その全表面積から毎分 $3.8 \times 10^{27}$  という莫大なエネルギーを放出し、 $1\text{cm}^2$  当り毎分 $80000\text{cal}$  で $8.5\text{Wh}$  の $200\text{Wh}$  のエネルギーに等しい。この発散されたエネルギーの内、数億分の一のものが地球に達し、地表に達するのは更にその $0.6\%$ 位である。晴天の日の正午の値で、日光に垂直な平面に対して、約 $1000\text{cal}/\text{cm}^2 \cdot \text{min}$  の値となる。

さて、間接的には我々が今日まで使つて来たエネルギー源、例えば石炭、石油、水力、薪炭、風力、地熱、潮力等は全て元は太陽なのである。この太陽の熱をもう少し直接的に利用しようとしているのはどんな分野かというと、a 太陽エンジン、b 電気への直接転換、c 蓄電池、d 熱としての蓄積、e 海水の蒸発、f 光化学反応、g 生体の光合成、h 農業、i クロレラ、その他、j 燃料等が上げられる。

このような手近なエネルギー源が何故現在まで開発されずにいるかという点、第一に、日光をとらえる方法は数多くあるが、いずれも効率が悪く、決め手といたつたものがない事。第二に、石炭、石油のように、太陽エネルギーの貯蔵と運搬が困難である事で、日光が季節的にも一日の内でも、不定、かつ断続的である事は致命的である。

では、日光のエネルギーはどんなものかと申しますと、地表に達する日光は、波長 $200 \sim 400\text{nm}$  の紫外線 $400 \sim 800\text{nm}$

の可視光線  $4000 \sim 7600 \text{ \AA}$  の赤外線より構成される。

これらは全て電磁波はエネルギーである。エネルギーが運動すれば重さを持ち粒子となる。

即ち、光は波であると同時にエネルギーの粒子で、これを光子と言ひ、或る波長の電磁波は光子としてエネルギーの大ききで表わされる。この光子のエネルギーは振動数に比例し、その比例定数がプランクの定数と言われるものである。この光子のエネルギーは、例えば紫の  $4000 \text{ \AA}$  の波長の光は、約  $3.0 \times 10^{-19} \text{ エルグ}$  に相当し、非常に大きなものであるが、この紫の光を受けて、 $2.0 \times 10^{19}$  を得る事はおろか、数  $10^{19}$  を得る事すら不可能であろう。

この日光のエネルギー、特にエネルギーの高い紫外線によつて化学反応の進行するものもあるが、光源としての日光の不確実性のために、又、光の強さが弱いために、光源は安定な水銀燈が使われる。

そこで、この希薄された日光のエネルギーをガラスとか、アルミニウムの反射鏡を用いた太陽炉で集めて高温に持つて行き、熱源として利用する事が試みられた。

これだと焦点温度  $4000 \sim 5000 \text{ }^\circ\text{C}$  位の温度が直径  $5 \text{ cm}$  の反射鏡で得られる。又、太陽炉は純粋な熱だけを与えるのが特長で、他の熱源のような燃料物が残つたり、不純物や電磁力の影響が全くないため、金属材料の研究にも正確なデータが得られ、装置が簡単な

ため耐火物の研究も手軽に行える。

このような超高温を得るのではなくて、水を沸かしたいといった目的で作られるのが、太陽温水器である。太陽の熱は  $1.5 \times 10^8 \text{ Cal/cm}^2$  として一時間に約  $600 \text{ Kcal}$  入つて来る。プールに作る風呂を例えば、 $5 \text{ m} \times 5 \text{ m} \times 0.5 \text{ m}$  とし水量を  $20000 \text{ L}$  とし、 $15 \text{ }^\circ\text{C}$  から  $40 \text{ }^\circ\text{C}$  まで温度を上げるとしたら、 $50000 \text{ Kcal}$  の熱量が必要となる。六時間太陽の光を受けるとすれば、

$50,000 \text{ Kcal} + 4000 \text{ Kcal} = 54,000 \text{ Kcal}$  効率  $45\%$  として約  $230 \text{ m}^2$  の面積があれば

良い。温水器は箱にガラスの蓋をしたような構造で、ガラスを通して入つて来た熱を箱の底の部分に配したパイプで吸収する。

ガラスは二〜三枚重ね、その間を  $1 \text{ cm}$  位あけて空気の層を作り、ガラスの表面から熱の逃げるのを防ぐ。熱を受ける面は垂直、又は斜めに南面して置き、黒く塗つた銅板あるいは鉄板に管を溶接して板からの熱も管を通して流れる水で吸収する。

雨の日でも温水を得ようとするれば、予分の熱を何かに蓄えて置く。普通、塩化カルシウムとか、炭酸ソーダ、芒硝等の融解潜熱を利用して、これらが融解する時に吸収した熱を、再び固化する時に放出させるのである。

効率が低く、受熱面積が十分取れない場合でも、湯は必ずしも  $200 \text{ }^\circ\text{C} / \text{hr}$  を必要としないし、途中で冷めても少し火を焚いて加熱してやれば十分であろう。しかし、装置の建造費が、

バイピング、循環動力等相当かかると思われるので、我がプールの風呂に利用出来るかどうかわかりません。

次に、日光を発電に直接利用したのが太陽電池で、熱電対、光電池等があるが、変換効率が極めて悪く、 $\mu\text{V}$ に満たない。近年になつて、シリコン太陽電池、カドミウム太陽電池が発明され、これらの理論上の効率は $\approx 30\%$ 以上に達するのであるが、今の所まだ $\approx 10\%$ 程度の効率しか得られていない。非常に値がはるのが欠点であつたが、無人燈台に利用されたりしている所を見ると生産面で解決がついたのであろう。

もう一つ、太陽エネルギー利用の研究としてあげられるものにクロレラ栽培がある。宇宙船に於ける酸素と食料の解決策のひとつでもあるこのクロレラは、単細胞の緑藻類で、一年中いつでも光合成を行い、その成長、増殖は驚くばかりで、良い条件の下では、一日の中に目方が百倍以上にもなると言われる。クロレラが食料になつた場合、その栄養量は乾燥した量の半分が蛋白質で、脂肪と炭水化物が $\approx 10\%$ づつあり、他にビタミンA、B<sub>2</sub>、B<sub>12</sub>、C、カロチン等が含まれる。乾燥したクロレラは、見た所ヒキ茶に似ており、味はヒキ茶に青苔を混ぜたような風味で、至極あさりしているそうである。このようにクロレラは、非常に多量の蛋白質を含んでおり、その栄養価は、牛乳の蛋白には劣るが、普通の植物性蛋白よりも優秀であると言われる。又、その収獲量たるや、

単位面積当り、大豆の三〇倍、米の八倍にも達する。

今後、このクロレラが生産されるようになれば、人間の食料に供せられるかどうかは分らないが、家畜の餌とか、河童の餌には最高であろう。

## 練習を終えてから

新10B 岡田重義

さそわれるままに水を求めて水泳部に入つてから、あまり泳いだと云う記憶もないままに三年余の月日が過ぎ、知らず知らずのうちの上級生になつてしまつたのに驚いた。

水が冷くて入るたびに泣けて来そうな五月、六月の練習や、腕を振るのもケダルイ七月、八月の合宿など、プールを中心にした三年余がなつかしく思い出されて来る。楽しかつたことも、情なかつたことも沢山あつたが、中でも楽しかつたのは、練習を終えて空腹感と、軽い疲労感とに満足感を覚えながら校門を出るとき、眼下に輝く巷のネオンにさそわれて、あるいは上級生に連れられて、あるいは同級生と、下級生と食欲を満しに行つた思い出。いつもはむつかしい顔をして少々近寄り難いような上級生や、まだ満身に泳ぎきれないような下級生などが一群となつて、ソロソ

口と、あそこがうまい、ここが安い、とネオンの下を歩きまわつたことが思い出される。

ある時は勝利の美酒に酔い、ある時はいろんな悩みに苦い杯をなめたのも同じ街角だ。

二・三、足しげく通つたところを思い出してみた。

エクラン

古くからの水泳部の溜り場で、古林先生はじめ多くの先輩が足を運んだところ。最近、可愛いらしいメツツエンが居るとかで、飽きることなくミルクを飲み、寒いのにアイスクリームを喰べ、水をガブガブ飲んで来る奴も居る。一人前の顔をして威張つて行つてみても、あそこへ行けば全く赤ん坊あつかい。これもミルクばつかり飲んで居るせいか。ホームシックになつた人向き。

バラライカ

最近店を改装して以前のような雰囲気はなくなつてしまつたが、入りやすいロシア料理店。八回生の人に連れられて行つたのが病みつきで、よく通つたものだが、ボーイさんしかいないのが気に入つた。我々は、一金百五十円のコースの常連だが、下からA、B、Cとメニューに記入してくれるとうれしいのだが。

カルメン

ドアを開けると頭もかなり薄くなつたマスターと、イレアドールパンツのオ姐サンが飛び出して来る異国情報あふれる店。真ん

中のホールでは、ピアノが鳴り、フラメンコギターに合わせてジブシードダンスがある。情熱を売りものにする困柄だけあつて、我々だけで行くのは少々気がひけるようなムードがある。ウエイトレスに、ベサメムーチョと云つてみたが返事がなかつた。ムード派向き。

拾兩ずし

この活気あふれる店は江戸前とか、勝利の酒に酔いしれ、感激にひたつたあとでの一にぎりの味はまた格別。暗算の弱い向きには困るけれど、喰いながら銭勘定のできる向きには同伴も向くだろう。しかし、この場合、ワサビをウンときかされるが、これにもまた趣がある。ききすぎたワサビに流す清い涙も、若い日の感傷か。感傷派向き。

らんぶ亭

小さい入り口から入つたとたん、焼き肉のいいにおいがする。油つこすぎるのが少々難と云えば云えるが、鉄板を前にして厚いやつを焼きながら喰うのも一興か。あのポリニウムを前にした時の感激は翌日の好調を保証してくれているようだ。スランブに喚き、他人の景気よいベストタイムの声を横に淋しく泳ぐ者向き。

トン平、喜多八

トンカツ専門。キャベツばかり喰わされて体の油気がブルーの水に流れ去り、体を動かせばガサガサと音がするようなときでも、

ここでトンカツを二・三枚もたいらげると、関節も円滑に動くようになつて来る。トン平は止り木スタイルの気軽さだが、オヤジさんが水泳ファンなのが嬉しい。喜多八は、やや高級で御婦人の客も多く淑女が大きな口をあけてトンカツにかぶりつく、普段他所ではあまり見られない光景が気軽に楽しめる。話題が乏しく退屈な男向き。

#### 大平閣、揚子江

神戸名物豚マンその他中華一品料理全般。メニューの端から端までたいらげるのに二千六百四十円かかったが、今はどうなつてゐるか。逸品はブタマン。ジュークボックスで他所の奴がならす音楽を聞きながら、四つ四〇円のを喰べて居ると、四つ目のを喰い終えると、もう先のは消化されてしまつてゐる。消化不良者向き。

#### ドック

元来はフランス菓子屋だが、このごろ流行のコンビナートの影響か道をへだてて別館が新築され、ホットドッグや、サンドイツチまで喰わす。しかし、本館二階で喰わすショートケーキはまさに最高。質量共に豊かで心まで豊かになつて来るし、チヨットハンスナムなボーイさんが揃つて居るからと云つて来る女学生も多い。このいい気分も店内だけのもので、レジスターへ行くと一度にふつとんでしまう。窓越しに道行く人の品定めをするのもまた一興

だろう。一度ぐらい豊かな心になりたいと願う者向き。

#### 一平

串カツ専門店。国鉄元町駅のところであり、少々行くのに不便さにもかかわらず足しげく通う男も居る。そのメツツエンに惚れた男が居て、彼と行くと断然こつちのサービスが悪くなる。サービスが悪くてもいいと云う奴以外は、彼の居ないときをみはからつてこつそりと行くこと。スリル愛好者向き。

#### 寿本舗、不二屋

アンミツ、ミツマメ、ETC、甘いものなら何でもある。寿二階は、昨冬、シーズンも終えたあとお茶とケーキでささやかなパーティーを開くにあたり、我が部員が急撫パートナー作りに悪戦苦闘し、全員枕を並べて討ち死にした悲しい苦戦場。

不二屋二階には、喰い方のわからぬものも多種あり、探求意欲盛んな御人に御推めする。オ子サマランチを取れば、真ん中に小さな日の丸の立つた奴を喰わして呉れ、帰る時には出口で風船をくれる。暇でしかたのない人向き。

#### メリケン波止場のラーメン屋台

紙数に制限があり、ポピュラーなものしか書けなかつたが、これを除くわけにはいかない。古くからの日本の玄関口に色とりどりの街の灯を背にして立ち、広く世界を前にすればモヤモヤした気分など吹きとんでしまう。試合のあとなど、汐風に吹かれなが

らここで一杯やるのも神戸ならではの味だが、この時間こえるチヤルメラの音はいいものだ。あらためて食欲も頭をもたげて来る。

## 飛び石連休前後

新10P 米田啓祐

このはげしい感情の起伏を表わすのに何を書けばよいか。

今ははりつめていた、緊張しきつていた自分自身の内面が、このよよい音をたててくずれて行くのを感じる。はげしいスポーツの後のすがすがしさのようだ。今夜はよく眠むれそうだ。

想像においてぼくは興奮していたようだ。恋に恋するとはまさにこういう感情なのだろうと思う。これ程、たあいな自分だとは我ながら驚き、その馬鹿らしい程までの情熱に驚く。

だが実際、今まで彼女はぼくにとつてまったく何物でもなかった。昨日、Sと話していて明日のパーティにさそおうという事になつてから、彼女はぼくを占めてしまった。

それからずつとその事が頭を占め、その事によつて支配されていった。アルバイトが終り、Sの所に相談に行つた。話しているながら、ふと、あきらめるのが当然だと思つた。

その時だけ、彼女の姿がぼくの頭の中に浮んで来た。

そうだ、それだけの事だったのだ。だがそれだけで十分である。今からはこのさびしさに耐えようぜ。

例によつて例のごとく。

INFERIORITY、COMPLEXと屈辱感と、多少の満足感と楽しさのPARTY。

科の新生歓迎会コンパがあつた。四年だ。最上級生としてのプライドがあつていいはずだ。堂々とした。もうこの一年しかないという例の悲しそうな顔も。

帰り、Y先生訪問、まだ新婚まもない家庭。未来に対して、何か期待してもいいのではないかと思えた。結婚に、そうして人生に。

○  
姫路での水泳を終えて帰つて来た。泳ぐことにうちこめて、充実した日々であつた。記録もよかつた。一分十五秒、二分四十五秒。六分八秒、十二分一秒というのが各々のベスト。

○  
姫路に、ぼくらの時代の練習日誌があつた。表紙など日焼けしてほとんど変色してしまつていた。

日誌は、ぼくの時代が確かに姫路にあつたことを示していた。

感慨、それだけでいい。ぼくはその時を多少の感慨でながめるのだ。馬鹿みたいに泳いでいた。それでもよからう。青春を、確かにぼくはすごしていたのだ。

なぜ泳ぐ？そんな詮索は必要でない。近代的エゴイズム的人間はその回答が必要であるらしい。彼らは自己の利益になるとわかっているから行為を起す。泳ぐということに対しても、彼等はその動機を功妙に作り出す。自己を鍛えるとか。忍耐を養うためとか、又そう云うことが彼等に知的満足感、道徳的満足感を与えるらしい。

しかし、泳ぐことはそれですべてなのだ。それが価値があるのかないのか、すばらしい事なのか、くだらない事なのか、そんな事はどうだつていい。自分自身の肉体がありその肉体が行為するかぎり、そしてそれに自分自身ひかれるかぎり泳ぐ。

——泳ぐことも四年目を迎えばそれによつて、自己を主張し弁明し、美化するらしい。

ぼくは泳ぐことにおいて行為する肉体を信ずる程精神を信用出来ぬ。現実の社会、現実の人々を、ぼくが泳ぎに対する感嘆ほどにながめることは出来ない。

君らはそのくだらないことさえ出来ない人間なのか？

—石原真太郎—

○  
連休は終つた。はなやかなるいそがしさの中に、その幕を閉じた。

電車の中で偶然女の人の足をふんで、それがぼくには何の関係もない事がわかつた。相手の人にはいくらかきずつけたかも知れないが、これから生きていくかぎりそんな罪を重ねるのであるか。しかしその罪をとがめられたとしても、神にはなく、まわりの人々にであらう。だからそんなものは恐れる必要はないが、どうやらぼくは恐れているらしい。

合宿などでの態度、あるいははすごし方と、うものがわかりかけてきたような気がしている。

その合宿の中に自分のすべてを投じて、泳ぐことに打ち込むべきなのだ。

船上にて

You / 退水 /

新10E 山田貴彦

出発に先立つていろいろ御迷惑をかけ、申し分なく思っている。それ以上に一人こうやって船などに乗つてのんびりしていることを辛く思っている。僕も半ばあきらめていたのだが、日銀、

外務省、大使館、船会社にと、どこも超特別扱いで、どうやら横浜出港の一日前に書類が整った。

今は多少の船酔も手伝つて毎日寝てばかりいる。もつとも今朝は日の出頃波もおさまり退屈したので、トレパン、トレシヤツに着替えて甲板で整理体操をやつた。お蔭で今日は少し調子が良くどうやら飯も食つていられる。大分温かくなつてきたが、プールには未だ水が入つてない。HONNE KOROをすぎたら水を入れるだろう。だけどプールは ONLY for First and Tourist classで我々 Cabine class には使わせないらしい。だけど僕のことだ。\* I am a swimming teacher of Kobe University \* 位の事をフツカケてはまり込むと思う。プールと云つても高々10m位、ボロを出す事はまずあるまい。モットモ、赤フン丈で泳いだら \* You 潜水 \* してな事にあいなるだろうが。

a bord de Cambodge

1e 5 mai 1961

山田 貞彦

## 「千五百米道中記」

新11B 荒井康之

「アツブ」

今日は腕がとても軽い。好調だ。隣のA氏は……うん、比較的疲れた様な顔をしている。腕も重そうだ。よし今日はひとつ彼を振つてやるか!!

スタート台上にて

ちよつと胸さわぎがする。足や膝の力が抜けてゆく様だ。武者震いかな? きつとそうだろう。水が汚れているなあ。心なしか風が出て来たようだ。嵐の前の静けさ? 何だ、隣のヤツは笑つてばかりいて、しまりのないやつだな。「GO!!」えい面倒くさい。飛込んじやえ。ドボン。

五十米あたり

今日は速いな。うんA氏とは、未だわずか十米の差だ。よし今日はいけるぞ。他のヤツ等は……遅いらしいな。よし、このあたりでA氏に追つくとするか。今日のタイムは二十分か三十分だろう。俺のオジさんが云つていたね。「オリムピックは参加するだけでは駄目だ。勝つて初めて意義がある。」いやまつたく。大賛成。大賛成。

二百米

疲れたア。もう四百米位泳いだかな？よくここまで泳いだものだ。ちよつと休もうか。ドッコイショ。A氏はいすこに？やや俺の隣で泳いでいるぞ。案外遅いな。でも今日は俺が四百米迄思い切り飛ばしたから、彼もついてくるのに精一杯だったのだろう。

無理もなか……ありやコールが俺より一桁上だ。しまった。えい!!あととは流せ。

四百米

ああもう駄目だ。明日から当分水泳はやめたネ。今日はなぜこんなに疲れるのかな？うん、今日はの朝飯のタクアンがあたつたのだろう。そういえば、なんだか変な匂いがしていた様だ。アイタタ……：横腹が痛いや。俺のオジさんの云つたことにや大反対だね。「オリンピックは勝つことでなく参加することである。」これが大切だよ。当然!!

八百米

何だか少し楽になつてきた。腕と心臓が自動的に動いている。コールの声もずつと遠いところから響いて来る様だ。A氏に何回コースをゆずつてやつたかな。ヤツは一度もアイサツしないで通り過ぎやがる。まるでダンブカーの様だ。左隣りはと……うん、バツクのI氏だな。イヤなヤツだね、後向いて笑つているよ。でも何だつてああ上向にねているんだろう？男は本来、仰伏せなの

に。W過剰か、積極性のない証拠だよ。アツ、プールサイドに可愛い娘がいるよ。よオシ、とつておきのフオームで泳いでやれ。そらどうだ。オオ俺の方みているよ。エへ……：スカートの短い娘だね。ウヒ……。ゴホン、ゴホン。畜生!!隣のヤツ水を飲ませやがつた!!

千三百米

アト二百米……：アト百九十九米、アト百九十八米……：アト……：神よ、無事ゴールに着かせ給え。三プラス二は……：エーと六かな？いや四だ。コレも違うかな？頭の中がテンデまとまらないよ。

ゴール

やれやれ、疲れた。俺は……：一番ピリかア。しかし、まあいいや。俺のオバさんが云つていたよ。「敗れろが勝ち。」だつて。そうだ。お袋さんも云つてたな。「康之よ。身体に気をつけて。人生健康が一番だよ。」彼女も云つてたつて。「能あるタカはツメをかくす。」つて。

ロツカーの中に

アア、今日は良い天気だな。雲が浮かんでいる。もう第二陣の出発だ。「オーイ、皆、頑張れよ。」しかし、良く考えてみると……：千五百つて案外……：軽いもんだなあ……：イヤまつたく。

結語

諸君。千五百米を恐がることはありません。実に軽いものです。誰かの財布の様に。

## 格 言

新11T 丸山卓也

格言について、別に偉そうな事をいうつもりは全くない。しかし、格言というものは仲々味のある事を云つていて、面白くもあり、又、それを常に頭に刻んでいて損はいかない。

僕は、米国野球界の名監督といわれたドローチャーは、『明日は雨かも知れない』。といった事を覚えている。明日は雨で試合がないかも知れない。だから今日全力を尽しておこうというのである。ドローチャーは、野球に対してこういつたが、この精神はあらゆることについて当てはまるのではないだろうか。水泳もその例外ではない。

LONDONを行つていて、後のINFECTIONALの事を考慮して泳ぎ、或は、又、明日の練習をセーブしたりする事は、全くこのドローチャーの精神に反するのである。最も、我々の練習は、雨が降つても行われるが、そんなことは問題外である。

その場、その場にベストを尽すということは仲々むずかしいことだ。云うはやさしく、行方は難しというが、全くそうである。練習前、プールサイドで憂うつな日もあれば、睡眠不足の日もある。そんな時、ふと、いかげんな練習にしたいと思う邪心も浮ぶが、いざプールへ飛び込むと、もう知らぬ内に頑張っている。僕はいつも思うのだが、体が疲労しているとか感じるのとは、とるに足らないと思う。ある本によると、慢性疲労は真の疲労ではないそうである。

僕の場合、学部の関係上、六甲の人より練習日が週一日少ない。それも日曜日に補なつてはいるのですが、一日もおろそかにしないつもりであります。そして、練習の苦しい時思い出すのは、この言葉です。

苦しい時、その時こそベストを尽すべきだと思います。これこそ、我々スポーツマンの本当の姿ではないでしょうか。

## 無駄の話

新11E 林 莊八郎

能率的・効果的・有効的と云うことが最も尊重される御時勢にこんなことを云うこと自体が笑い話となるかも知れないが……。

建築に於て空間がすき間のない位効果的に利用されている。部屋にしても天井を低くしてビルの階数を多くするのに努力が払われ、廊下はせまくなり、狭い部屋がそれは又、有効に使用されている。建築を担当した技術者の腕は認められてよいが、まるで息がつまりそうな感じがする。無駄のないと云うことが如何に空しい悲しいことか。

人間にしたつてそうだ。何事もうまくやりこなし、ソツがない人間も一見素晴らしい人間に見えるが、やがて、やり切れなくなる。ソツがないことがアダとなつて人間的魅力が欠けてくる。何をやらしても失敗と云うのは勿論いたゞけないが、何処となく間が抜けた人間と云うのは、見ていて楽しく味方を得たような親近感が湧いてくる。間が抜けている所がある故に長所が目立つ。

空を見る。まさに空である。ここに大きな無駄があつたのを発見する。空を仰いで、太陽と月と星と雲と鳥が、昔のまゝに見られるうちは幸せである。飛行機産業が日本に於て発展するのも結構だが、どうかロマンチストのためにも空だけは今のまゝにして置いていたゞきたい。空を仰いだらトンボの様に飛行材がとんでいるのでは幻滅である。

空を見ると爆音、陸には電車・自動車の騒音、人間が努力に努力を重ねて無駄を排し、有効に有効にと進んだ結果が現代の姿だ。そのために人間は逆にそれに悩まされ、逃げる所をさがす。我々は一切何処へのがればよいのか。

無駄は大切だ。無駄は残されておくべきだ。  
 人間社会には無駄は大切だ。

よそ目には無駄な骨折り損と目されることを懸命にやっている人を見ると楽しい。他人は何のお節介をする必要もない。本人はそれに無上の楽しみ、喜びを感じているのだから。実利的なことの習得にばかりに時間を使うことも結構だが、それでは人生に何のゆとりもない。味気ないの一語につきる。時間の合理的使用は現代人のモットーかも知れないが。

そもそも頼みもしないのに生命を授けられはしたが、人間社会において別に求められる程の人物でもなし、全く無駄な存在であると自認しているのがこの私である。飯の食いつぶしをやり何ら生産的働きをなしていない。不経済きわまる人間である。これも本人は大いに消費生活(浪費生活かも知れない)に加担している誇りがある。消費ブームを作り出した有力量メンパーである。が、本人、この世に於て生きる必要はさらに感じていない。現在この



彼方に押しやるのは本当ぢやない位、分りきつちゆうけんのう。おまんに分つて貰い度いのは、人間関係の機微を体得することこそ、大学に於ける四年間の課題ぢやないやおかということよ。話は交るけんど、この顔を見て内心こう思ひゆうる。こぢやんと黒うなつたねや、と。

けんど心配はいらんぜよ。こうなるまでと同じように、今でも女の子には不自由せんきの。なにせ黒いがかもてる時世でもあらあよ。こうはゆうても充分深い関係になつたことあのおうて、いつちやち淡いもんよ。ほんならこちや立話もできんきに、又ゆつくりどこぞで会おうや。」

…… 街でばつたり会つた友人との一コマでした。

## 姫路プールのある日

新12T 竹内省三

午後十二時十分、四日間の開学記念祭も終つたあくる日だ。まる四日間の練習なしが朝から気にかかつている。実際六甲プールでやるつもりだったが、都合でぜんぜんあかなんだ。去年でもシーズン最中ではこんなためしは一度もなかつたはずだ。今日は一体どんなタイムが出るだろうか。二百米になると後半がぐんと落

ちるのはどういふわけか。これもまだ練習が足りないためか、それとも気力の問題か……と考へながらプールのカギをあけたらなんと水のきたないこと。これも手入れの不徹底のためにちがいない。ええいやけくそだ、なにもかもうまくいかんわい。

さあ腹がへつた、めしを食おう、どこか涼しい場所とは見まわしてみる。毎年絶好のすずみ所になる藤だなもう花は散つて青葉でふさふさしてきている。名ごり惜しそうにまだ密ばちが二匹いる。朝六時にめしを食つてきたのもつと食べたい気がする。今日は特にそうである。ところが二時間後にはノルマが待つている。あまり食うわけにはいかない。これだけで我慢しよう。さあ一寝入りするか……そうだ水を入れてオーバーフローさしてみるのもよからう、まだ二時間あるさかいに連中が出てくるまでには少々でもきれいななるだろう。そこでモーターのスイツチを入れる。

新入部員の蔵野君と山岡君がひよつこりやつてきた。水温二十四度、これならいけるとドブン。木蔭にタオルをひっぱつて、上ははだかですとウトウトしながら蔵野君の泳ぎつぷりを横目でみる。彼もずいぶん速くなつたものだ。これも練習の成果だ。当りまえだ。……グウグウ……。山岡君がプールのビートとフリーのとはどちらが速いだろうかときいた。もちろんフリーの方だと言つておいた。後でしかしブレの方が楽やし、しかもはやいという声

がした。去年の今頃これと同じことを考えておつたなと思ひ出された。グウグウ……。

二時十分、少しはゴミもとれたらどうかとプールを一廻りしてみる。ところがどうだ、西よりにプールは低いのでそこから水が全部あふれてしまつて他の部分はいつこうにきれいになつてない。あかん、そこでももう十五分まつ。しかし変らない、ついでだからもつと入れたいのだが連中が見て気落ちするといかんと思ひ走つて行く。

二時半、安茂と山本があいかわらずそろつてゾロツト、ロツカ一に顔を出す。安茂いわくだいぶ水がふえたな。いつもはやくくる武政がまだだ。用事で故郷へ帰るといつておつたからまだ姫路にはいないらしい。やはりキャブテンがぬけるとどこか変な気がする。

やつと十二人程そろつて。部員の数のわりに一年生の出席はあいかわらず悪い。ちよつとしめるか、さあ一年生がきたからには弱みなどいつておれない。六甲勢にもまけておれない。気にかかる事ばかりだ。

準備体操もいつのまにかすんだ。第一陣ロング四百、用意！

ゴッー ドブン。

いやあせるには及ばん、まだまだシーズンはめぐつてくる。泳ぎ始めてまだ一年じやないか、高望みは禁もつた。大きなゆうゆ

うとした泳ぎが必要だ。こんなあきらめとも意気こみともつかぬ力が全身に一パイだ。しかし二百をすぎるとだんだん消えていくのがわかる。やはり水泳はよいものだ。今日はちよつとスピードが出ている気がする。フィニッシュに気をつけたかららしい。これならもうすぐ六分台突入だ。丸山さんがよく言つておられた。調子がどうも悪いというと、水泳は気分の問題だと。ほんまにそうだ。もつともつと精神的に強くなければならない。特に自分には必要だ。いつもそう思っているのだがあいつは変らずだ。これではいかんわい。今週の土曜日には四年生がだれか来姫されるそうだ。先輩はいつもありがたいものだ。これからインターバルがある。岸先生がやつて来られた。今日はプールサイドにどんな人が？横目でちらりちらり。又ドブン。



## 前田和秀

新13丁 前田和秀

締め切り日まであと二日しかなく良い文章も思いつかないので、今回は、自己紹介で御勘弁願います。

本籍は、神戸市（昭和十六年十一月九日生まれ）で、戦争中、親父の国である石川県に移つたが、終戦後再び神戸にまいもどつて来た。小学校（板宿小学校）に入る前に、夏になると毎日須磨の海岸に泳ぎにいつた。そこで覚えたのが横泳ぎである。よく泳いだせいか今日平泳ぎをしても、無意識に横泳ぎの足になつてかたはらいたいほどあつたのである。（もちろん、自分としては、プレストの足をしているつもりであるが。）

小学三年の夏、現住所（西宮市甲東園一ノ四〇）に移つた。この時は、あまり泳ぎにいかず、たまたま武庫川とか香炉園の浜に泳ぎにいつた。

昭和二十九年甲陽中学に入学、遊びまくつて落第寸前に追い込まれたが、かろうじて助かつた。（学年末、百六十一人中百五十九番で及第、二年になつて学校へ行つて見ると、二人落第してゐた。）中学生の間は、たびたび浜に泳ぎにいつて貝等をとつた。

（今でも貝とりはうまい？）そのかいあつてか、もぐりは非常に上達した。この頃から水泳部にたまらない程の魅力を感じ始めた。

それで、高校（甲陽）に入ると、まづ先に水泳部に入つた。はじめ、フリーをやつてタイムもぐんぐん上つたが、七月頃、二人の先輩がフォームの矯正をいつてきたので、手と足とがばらばらになり、体がローリングして、タイムもぐんぐん下つていつたが、シーズン中は、フリーでおし通したが、友人からむちやくちやだといわれ、泳いでいるのを人に見られるのが恥かしくていやになつていつた。二年生になつて六月、甲子園プールで練習を始めたが、やはりローリングするので、やむなく、バックに転向した。それで、バックをやつたのは、七・八月だけであつたので、あまり上達はしなかつた。（今日も同様である。）三年になると受験のため（オレは、ほとんど勉強しなかつた↓浪人）ほとんど泳がなかつた。しかし、今から考えると、受験といふ口実をもうけて泳ぐのをさぼつていたのである。事実、シーズン中泳ぎ通した者は、良い大学へ入つてゐる。

背の高さは百七〇センチ、体重五十二キロでやせてゐる。又、ボール投げは五十五米で肩は弱いが、懸垂は、二十三回であつた。（今は全然だめ）体操、テニス、ピンポン等が得意である。大道で一年しこまれてから本大学に入学したのである。

（五月十九日）

# 河童の歩み

(一九六〇・五 - 一九六一・五)

○五月三日 総会

○五月七・八日 姫路合同練習

○五月二十二日 学内対抗ポートルレースに出場。

賞品のビールをせしめんものと力漕したが、奮闘空しくその努力もビールの泡とならずして水の泡と消える。

○六月四日 京阪神三大学対抗(大阪ブルー)

初戦であり、今後の展望を明らかにする試合として大いに注目したが、ほとんどの種目に首位を奪い、二位京大を大きく離して楽勝、堂々の五連勝を飾つた。

○六月十五日 対京大水球戦(植中杯争奪)

水球の初戦であり、又我々の水球をコーチして下さつておられる植中さんより寄贈された見事なトロフィーがこの試合にかけられているため、ボールにかじりついても時たむばと、全員必勝の意気に燃えた。試合前一週間は朝から、ゼミを返上しての猛練習が行われたが、その申装あつてか、十二対四で快勝、見事植中杯を獲得した。

○六月二十六日 第四十一回対大阪市大戦

日本最古の水泳対抗試合の行われる六月最終日曜日、梅雨の

## 対大阪市大戦戦績

(1) 400m混泳

井上	萩原	酒井	浅間
----	----	----	----

順位 ① 5'13"5

(2) 400m自由型

浅間	野田	武政
5'37"4	5'40"0	6'31"2

①

②

④

(3) 200m平泳

染矢	丸山	山田
3'10"5	3'05"6	3'19"6

③

②

⑤

(4) 200m蝶泳

酒井	柳本	窪田
3'08"3	3'11"0	3'33"2

①

②

④

頃で、晴れた日にも英国紳士よろしく傘を片手にする先輩の方が多い。迎えること41回。競泳の部では楽勝が予想され多数の新人に活躍の場が与えられたが、全員期待にこたえた。ポロの部では、四月中旬の峯合宿以来、「三商大完全優勝」の旗印の下に練習に励んでいた神大は、それへの足掛としてベストメンパーで挑み、17対1で快勝。三商大戦への明るい光明がさした。

(流水)

水 球

	大 阪	神 戸
前 半	1	10
後 半	0	7
計	1	17

競泳は98——63、水泳は17——1で共に神戸が勝利を納めた。  
番外として、競技に参加しなかつた者による二百米平泳と、OBにより継泳が行われた。

(5) 100m背泳

井 上	岡 田	渡 辺
1'20"7	1'30"0	1'34"4
①	③	④

(6) 800m自由型

浅 間	平 岡	米 田
11'53"7	13'52"8	13'54"6
①	③	④

(大会新)

(7) 100m自由型

夏 見	野 田	武 政
1'11"2	1'11"6	1'11"6
③	④	⑤

(8) 800m継泳

野 田	柳 本	浅 間	酒 井
① 10'33"4 (大会新)			

。六月二十八日と七月四日 合宿（於 大甲）

対大阪市大戦後、息つく間もなく合宿に入る。直接には七月五日の関西国公立戦を目ざすものであるが、それに引続いて兵庫インカレ、更には我々の最大目標である旧三商大戦が控えているため、かなり厳しい合宿となつた。

インターバルを中心にロング、ダツシユを行い、特に水球にも力が入れられた。七時起床朝食後四百米二本又は八百米一本。ビート五十米八本。ダツシユ五十米六本。七十五米三本。午後百米インターバル十本、二百米五本。七十五米ダツシユ五本。ビート、キヤツチング、ダウン。それが終るとポロが始まる。壁ボール、ラウンドパス、ドリブル、シュート、ビービーダツシユ、E.T.C.。一通り基礎練習が終ると、泣くに泣かれぬフォーメーションをやる。——ベツタリとマークをぶらさげて球を追うフワードのつらさよ、七持須練習終了。

日が沈み、夕もやがブルーに立こめると、あたり一面が白いかすみに包まれて、夜のとばりが音もなく降りてくる。ブルーの端に腰をおろして静かに目をとじると、ジーンとしびれるような疲れが全身を襲う。嗚呼、今日も無事終つたか、と淡い満足感にしばし身を任ねる。静かに暮れてゆく青春の一刻をじつとかみしめながら。

今夜のおかずは何だろう。カツかピフテキか、それともコロ

ツケか。後は飯を食べるだけかと思うと足どりも軽い。何故か三ノ宮のネオンが冴えて見える。可愛いあの娘の笑顔が浮ぶ。出はらつてしまつて人気の少ない合宿所に、誰がつま引くのかそぞろ哀愁を誘うギターの音がせつなく胸に迫る。今夜ものぞきはあるのだろうか。武勇伝を聞くのが楽しみだ。

○七月五日 関西国公立戦

京大の意外な拾頭、伏兵大阪府立大学にしてやられ、第三位に甘んずる。

○七月十一日 関西学生水球選手権

全日本大会の出場権獲得を目ざし、立命館大、関西大、神戸の三校でリーグ戦を行つた。立命館大が関西大を難なく下した後、神大は宿敵立命館大と一戦交える。フアイト十分なれど力及ばず16対2で破れる。続いて関西大とぶつかる。これに勝てば全日本大会への出場権を得ることが出来るので、意気盛んに戦つた。技術は我々の方がはるかに優れていた。興奮のあまり水中で取組合を演じて、見ている者をはらはらさせた場面もあつたが、17対2で快勝した。

○七月二十四日 (28回旧三商大戦) (一橋小平ブルー)

「三商大完全優勝」という野望を目前に合宿中酒井主将は病に倒れ、高岡、竹元、染矢の故障欠場と大幅な戦力低下が余儀なくされた。多くの先輩の方々、部員、更には大阪よりわざわざ

旧三商大戦戦績

(1) 100m自由型		(2) 400m自由型	
夏見	荒井	浅間	野田
1'11"7	1'13"6	5'26"2	5'32"5
③	④	①	②
(3) 800m自由型		(4) 100m背泳	
浅間	野田	井上	岡田
11'40"6	11'41"6	1'18"7	1'27"4
①	②	①	④
(5) 200m平泳		(6) 100m蝶泳	
丸山	柳本	柳本	窪田
3'05"8	3'07"0	1'23"6	1'29"5
③	④	③	④
(7) 400m混継泳			
井上	丸山	柳本	浅間
① 5'12"8			

さ陣指揮を願つた植中ポロコーチの声援の下で競泳には辛勝。一年間、汗と涙の結集の総決算ポロでは、酒井さん竹元の穴を全員でカバーすべく奮闘したが、2対1から後半逆転(315)され、誰からともなくブルーに涙し再出発を誓つて、必勝の我々を見守つてくれた人々に許しを乞うた。(流水)

(8) 800m 継泳

米田	夏見	野田	浅間
② 10'48"0			

水球

	神戸大	大阪市大
前半	12	0
後半	16	0
計	28	0

	神戸大	一橋大
前半	2	1
後半	1	4
計	3	5

○八月十七日～二十四日 合宿(於 徳島県鴨島)

柳本新主将のもとに二十名参加。

○八月二十七・八日 関西インターカレッジ

一部昇格を目ざして頑張つたが、甲南、松山商大に続いて三位に終り宿願果せず。他校のめざましい抬頭に、来る年への決意を新にする。

○九月四日 月見の宴

例年のごとくプールサイドで御馳走に舌鼓を打ちながら、苦

しくも楽しかつたシーズンを回顧し、先輩となごやかに閑談した。この日のメインイベントとして古林先生と前田先輩との世紀の大レースが展開された。御出席の面々は、古林会長、山田部長、植中ポロコーチ、山田(学1)、大内(学8)、岡本

(学12)、三宅(学16)、中井、西岡、石井(学22)、岡田

(新5)、阿部(新6)、岡村、北村(新7)、永野、村岡、

宇賀、杉岡(新8)の諸氏でした。

学22回の方々が連絡をとつて連れだつて来て下さいましたが、

今後このようなして多数御出席下さいますようお願い申し上げます。

○十月十五日 秋期練習開始

○十一月二十九日 追い出しコンバ

酒井、野田さんの四年間に渡る御活躍を讃え、甲斐性のない我々を熱心に暖かく御指導下さつたことに感謝すると共に、両先輩の前途に幸多かれと祈つた。御臨席下さつた方々は、古林会長、山田部長、山田(学1)、大内(学8)、岡本(学12)永野、村岡、宇賀(新8)の諸氏。

○十二月三日 遠足兼トレーニング

期待に胸をときめかせ仁川駅に降り立つた我が水泳部の面々、丸山がこともあろうに弁当を電車の中に忘れる。腹が減つては戦が出来ぬ。駅前のパン屋まで兵糧を仕入れ勇躍自信満々深秋

のピクニックセンターへ、ガールヘントに向う。……中略……  
我々の見出し得た唯一の女性は、はるかかなたで黄色の帽子に  
黄のショートパンツのキャディだけでした。(萩原)

○十二月十七日 ダンスパーティー

大甲山のみみじも落ちる頃、我部もシーズンオフとなつて、  
夏の非文化的生活では求め得られなかつたものを求めようと、  
さらに、従来、ややもするとこの時期に薄れがちであつたチー  
ムワークを固めるため、部として何か文化的な活動をやりたい  
という声が部員間に持ち上り、その結果実現したのがこのダン  
ス・パーティーであつた。ダンスパーティーとなると、当然皆の困  
るのはパートナーの問題であり、我々一同も、二、三の部員を  
除いては、これには弱つた。皆の奮闘のあとをたどると、先ず  
文句なく一度でパートナーを射止めたのは、やはりIさんであ  
り、続いてK君あたりであつたのは、部員をしてウナズかすも  
のがあつた。Yさん、Oさんは地の利を得た為か、これまた危  
げなくKeepに成功。S君もどうやら大丈夫。住吉の方では  
皆の予想にたがわず、Tさんあたり、ガツチリと固いものであ  
つた。M君も日頃の助平振りから考えられる如く、体に合わせ  
た三人の女性を、手もとへたぐり寄せる。ムツツリの日さんも  
主催者をヒヤヒヤさせたが結局オメダタン。かくして、Oさん  
の大奮闘、Yさんの司会のうまさも手伝つて、当日のパーティ

は大成功であつた。我々も充分満足すべき成果を挙げ得たこと  
もさることながら、日本のトップブレイダに、水泳に対する興  
味を抱かしめ得たのは、水泳日本の将来にとつて有意義なこと  
であつた。

但し、パートナー確保のためと称して、毎日毎日夜遅くまで  
三の宮周辺をウロツイテ、声をかける全ての女性からヒジ鉄を  
食わされたらしき二、三の部員、或は、センター街を割れた下  
駄で歩かされた御人は、大いに同情されてしかるべきであろう。  
このウロツイた部員はH君とA君、下駄ばきの主人公はHさん  
らしいという噂が有るらしいが、これはどうもデマらしくて信  
じ難い。

(新11 荒井)

○三月二十一日 春期トレーニング開始

○四月二日～九日 峰合宿(伊豆、峰温泉)

大挙の名参加。前半は大阪府大と、後半は日水連主催のオリ  
ンピック選手強化練習とぶつかり、いかに短時間で有効に練習  
量をこなすかが悩みの種となる。遂には“時差練習”なるもの  
まで登場。そのためスピードの均一化が要求されたため、記録  
の上下によつて絶えずメンバーが変り、その様はさながら相撲  
の番付を見るかのようにあつた。勝負の世界を身をもつて感じ  
た者も多々あるはずである。

○五月三日 総会

プールの水替の件、フロ設置の件などについて、活発に意見が交換された。御出席の方々は、山田部長、田淵（新3）、高岡（新4）、松田（新5）、村岡、宇賀（新8）、酒井、野田（新9）の諸氏でした。

○五月四日～七日 姫路合宿

今までは新入生歓迎コンバを中心にした合同練習であつたが、今回は名実共に合宿となつて、制限タイム付のロング、インタールがあり、制限をオーバーした者には、リバイバルが課せられたため、一日四千米以上も泳いだものもあつた。

○六月四日 京阪神三大学対抗（布施プール）

神大応援部の華かな応援のもとに全員元氣一杯戦かつた。京大の拾頭により苦戦を予想されたが、層の厚さとファイトで京大、阪大を文句なく圧倒し、大連勝の偉業を成し遂げた。その後、応援に来て下さつた永野、村岡、杉岡、太田（新8）、酒井、野田（新9）の諸先輩と共に祝杯を上げ、今後の活躍を誓つた。

## 昭和36年度行事予定

5月	3日	凌泳会総会（六甲台プール）	
	4日～7日	姫路合宿（姫路プール）	〔合 宿〕
6月	4日	京阪神三大学戦（布施プール）	
	18日	対京大水球戦（六甲台プール）	春季合宿
	24日～28日	関西選手権（大阪プール）	4月1日～10日（伊豆峯温泉）
7月	9日	対大阪市大戦（六甲台プール）	
	12日	関西学生水球選手権（大阪プール）	第一次合宿
	30日	旧三高大戦（大阪プール）	6月27日～7月2日（六甲台）
8月7日～8日		関西学生選手権（大阪プール）	
	14日～16日	全日本学生選手権（神宮プール）	第二次合宿
	24日	関西国立公立戦（布施プール）	7月18日～7月27日（六甲台）
8月	31日	全国国立公立戦（神宮プール）	
9月	3日	兵庫県学生選手権（甲南プール）	
	4日	近畿体育大会（大阪学大プール）	第三次合宿
			8月25日～9月1日（鳥取）

その①

## 神戸大学水泳部員ベスト・タイム表

5月31日現在

種目	氏名&学年	50m	100m	200m	400m	800m
フリー	4 浅間	32"0	1'12"5	2'35"4	5'27"4	11'23"8
	4 米田	34"0	1'15"0	2'45"0	5'56"8	12'25"0
	4 太田	33"5	1'17"2	2'55"0	6'20"0	13'10"6
	4 高岡					
	4 竹元	35"0	1'27"0	3'15"0	7'07"0	14'54"0
	3 荒井	32"8	1'11"6	2'52"0	6'40"0	13'55"0
	3 夏見	31"8	1'09"4	2'45"0	6'32"0	14'01"8
	3 平岡	34"0	1'17"0	3'06"0	6'42"0	13'57"0
	3 林	39"0	1'25"0	3'33"0	7'49"0	17'50"0
	3 渡辺	38"0	1'24"0	3'10"0	7'06"0	15'08"0
	2 鈴木(正)	40"0	1'32"0	3'27"0	7'30"0	15'49"0
	2 梶	34"8	1'18"8	3'06"6	6'58"0	14'36"0
	2 武政	29"8	1'09"8	2'45"5	6'00"5	13'08"0
	2 山本(忠)	35"5	1'28"8	3'11"2	6'54"5	14'32"8
	2 滝沢	32"0	1'22"5	3'14"8	7'19"6	15'33"5
	2 後藤	37"4	1'24"0	3'05"0	6'43"0	14'35"8
	1 石原	32"2	1'21"8	3'06"6	6'59"0	15'32"0
	1 真野	40"0	1'49"6	3'57"0	8'44"0	
	1 尾崎	43"0	1'36"0	3'48"0	8'29"0	18'52"4
	1 矢野	43"8	1'45"0	4'00"7	9'06"5	19'12"0
1 山岡		2'23"2	5'19"6	11'28"8	23'23"2	
ブレスト	4 萩原	40"0	1'24"8	3'06"0	6'46"0	13'59"5
	4 染矢	40"0	1'25"2	3'09"2	6'56"0	14'23"0
	3 丸山	40"5	1'25"4	3'06"8	6'53"0	13'59"0
	3 藤岡	43"0	1'37"0	3'39"0	7'43"0	16'36"0
	3 鈴木(剛)	45"0	1'43"0	3'45"0	8'00"4	16'36"0
	2 由井	47"0	1'37"8	3'37"8	7'42"0	16'31"0
	2 竹内	41"8	1'29"1	3'16"2	7'10"0	15'00"8
	2 大蔵	49"0	1'45"0	3'59"0	8'19"6	17'08"4
	2 清水	44"2	1'40"0	3'43"2	8'16"6	16'50"6
	2 中島	56"0	1'55"8	4'20"3	10'00"0	20'40"0

## その②

種 目	氏名&学年	50m	100m	200m	400m	800m
ブレスト	1 横田	49 <sup>0</sup>	1'43 <sup>0</sup>	3'46 <sup>0</sup>	8'01 <sup>0</sup>	16'13 <sup>0</sup>
	1 丸山	47 <sup>4</sup>	1'39 <sup>0</sup>	3'41 <sup>4</sup>	7'56 <sup>4</sup>	15'59 <sup>4</sup>
	1 山口	44 <sup>6</sup>	1'44 <sup>5</sup>	3'49 <sup>5</sup>	8'38 <sup>2</sup>	17'42 <sup>0</sup>
	1 朝比奈		2'16 <sup>8</sup>	5'15 <sup>0</sup>	10'47 <sup>0</sup>	
	1 富田	47 <sup>0</sup>	1'43 <sup>6</sup>	3'45 <sup>0</sup>	8'11 <sup>4</sup>	17'05 <sup>4</sup>
	1 吉田	51 <sup>0</sup>	1'49 <sup>0</sup>	3'57 <sup>0</sup>	8'55 <sup>0</sup>	18'22 <sup>8</sup>
	1 有賀	55 <sup>6</sup>	1'55 <sup>0</sup>	4'10 <sup>4</sup>	9'25 <sup>5</sup>	19'56 <sup>5</sup>
バ ッ ク	4 井上	36 <sup>5</sup>	1'18 <sup>2</sup>	2'51 <sup>0</sup>	6'05 <sup>4</sup>	12'49 <sup>5</sup>
	4 岡田	40 <sup>0</sup>	1'23 <sup>0</sup>	3'03 <sup>0</sup>	6'35 <sup>0</sup>	13'54 <sup>0</sup>
	2 安茂	41 <sup>4</sup>	1'31 <sup>1</sup>	3'32 <sup>0</sup>	7'46 <sup>0</sup>	15'59 <sup>8</sup>
	1 前田	46 <sup>2</sup>	1'42 <sup>2</sup>	3'47 <sup>0</sup>	7'48 <sup>0</sup>	15'53 <sup>0</sup>
	1 成井		2'47 <sup>5</sup>	6'35 <sup>5</sup>	14'55 <sup>0</sup>	36'45 <sup>6</sup>
	1 倉本	1'01 <sup>8</sup>	2'23 <sup>4</sup>	5'39 <sup>0</sup>	11'55 <sup>6</sup>	26'09 <sup>2</sup>
	1 蔵野	1'05 <sup>2</sup>	2'22 <sup>6</sup>	4'58 <sup>2</sup>	11'30 <sup>8</sup>	24'06 <sup>0</sup>
バ タ	4 柳本	36 <sup>0</sup>	1'21 <sup>0</sup>	3'06 <sup>0</sup>	7'19 <sup>0</sup>	15'07 <sup>0</sup>
	3 窪田	42 <sup>0</sup>	1'28 <sup>0</sup>	3'11 <sup>8</sup>	7'22 <sup>0</sup>	15'32 <sup>0</sup>
	2 武政	33 <sup>8</sup>	1'22 <sup>5</sup>	3'16 <sup>8</sup>		
番外フリー	4 井上			2'54 <sup>6</sup>		
	4 岡田	32 <sup>0</sup>	1'13 <sup>0</sup>	2'52 <sup>4</sup>	6'22 <sup>0</sup>	13'31 <sup>8</sup>
	3 窪田	36 <sup>0</sup>	1'20 <sup>0</sup>	2'58 <sup>2</sup>	6'24 <sup>0</sup>	13'32 <sup>0</sup>